

安政
印
洋
書

伊藤文庫
321

別段用說書

和蘭國

當年和蘭國中穩う隣國其外政羅の國を親く交ふ

交易及航海の便盛なり

千八百五十四年 安政元年 未だ千八百五十五年 幕府の初頃暴風あり

船許多破損人民數多溺死し 損害あり

當年三月二日新嘉坡より正地アールトランド名地外下レト地

遭半洪水の爲に破損し 諸般財物を失ふ 尤も死者あり

國王の妙親族も相變り多し 以て是を洪水の災なり

國王憤絶し 遂に不幸の災に投じし

和蘭領印度

和蘭領印度の地亦皆其地トナレテトウナレト人々

半軍 和蘭の地トナレテトウナレト名地の西方に旅行し

町上ニ都府ノ使一時同休ニ通々
映吉利ノカビヨウ止官本ニ安政元年一月ノ末安政元年
退動成リコルトガルスルスト右相動

柿朗西國

先度ノ別版ノ見書よりバリス 都府ニ好家千市等
車第五月一日 陽相始
町上トウウレトナコウ止右一名イセシ烈要大事
カミ屋百中軒焼己成
バリス都府ノ職人釘歩出付の銃炮製造の事發明
此製甚々平易ニ合宜ニなる右銃術家ノ余等
柿朗西國軍兵ノ働勢なる

イスパニア國

千七百五年五月廿八日安政元年一投起新督殿トシ
此名「コカ」名「メス」名「テ」名「エ」名「一」投の連中なる右授
官軍種ノ國戰
使堂ノ王ノ女及「スト」官ノ者共を追放しんと欲
女王「イサヘル」名「スバル」名「人」の助を乞ひ我の政成を
那都督殿「スバル」名「人」と「スト」官「ブレ」名「人」
手の母「リア」名「ス」名「イ」名「ア」名「セ」柿朗西國と連する
當時々年徳相威を以て伊イスパニア國「カリス」名「人」
り錢りも「一」名「人」同國象徵する右國益の事
配

「ポルトガル」國

ポルトガル國の軍兵はトリウ止
是れと頻々傳大國の事

「ドイツ」國

ドイツ國の「アメリカ」に
千七百四年十月廿六日
「アムステルダム」に
及「ハイユ」に
千七百四年五月五日
「オーストリア」に

「オーストリア」國

千七百四年五月三十日
「オーストリア」に
其一族の
都児格其外

千七百四年五月三十日
「オーストリア」に
其一族の
都児格其外

「オーストリア」國

千七百四年五月三十日
「オーストリア」に
其一族の
都児格其外

[illegible]

白海の港を以て此を以て取圍し將又魯西亜領ウツプラ
 止國の都府コラ地及北地世海清の地所を同盟方より發
 兵或所は燒步隊千八百卒軍の安以春人より拂朋西
 英吉利の海軍東海に送る此強勢リリーニ船千艘より
 千艘のし他三千五百門水支三万人銃兵五千人を以て
 人々拂朋西兵より力あり
 其時より未コロリスス止名の甚堅固なり魯西亜港を
 以て為る方より此を以て強がれ然るが魯西亜港の一所は發火
 月此時より事あり事一千七百十四年八月十五日
 日未でシレニ下城及び砦を以て取事より方より千人の兵
 捕りて他國に押領し一月盟を彼方の兵を以て確に
 廿人を殺戮し一將又城郭を破壞し此押領を以
 ち後強しとの大業を以て終るなり
 右其兵勢の甚廣共船二台より止名の魯西亜港に在る

然し之は幾多の排解を要す利海軍は數の陸軍より少
 の地を占め地軍勢都思格致と一千の威を以て魯西の
 領地を幾向しとや告の期に排解せしむる公力有る魯西
 國といふ大軍を相援ふ其勢千五百より三万に及ぶ
 一しとの事は備公史

「吊り、カモ」今拂所西英吉利勢五万四千人在

八月廿四日^(七月廿七日)右船より石を積入り、同日^(七月二十一日)右船より
九月十四日^(八月十七日)右船より石を積入り、アリカヒルガに「コンスタンチ
ノポリ」の地あり。同出帆海路は赴き、此軍勢ハ八万人ある云々「コスヒロ」の
地より上陸場方々有るが九月十三日^(十月七日前)十六日^(十月十日)計三日程滞
留し、此地へセバストポリ^(地)の地も英吉利里法三十里北方に當
て、フアトリヤ^(地)より二十里南手は當り、且魯西亜の防衛を為
す侍者將者初めより魯西亜人並に入居せしむ。
フエルドールシカル館「オーストリア」コロムビア魯西亜海軍元キリ

陸軍の軍將も亦其計はアトミラーに奪ナリト云々
ロイヒン人セバストポル地港の軍令で回せり
ミラーに館を
けテミラー欲々同處陸軍の將として其若の時索を申す

手し^地の魯西要勢、其以吾人、相固よん、去るる
又、冬、^地我、相叶る、安、其、月、二、萬、二、ヤ、さ、ラ、一、^地谷、リ、フ、ラ、シ
所、^地谷、^地北、手、と、并、東、^地去、さ、る、な、

一、錢中書勢美吉，利勢凡三百卒，搏厨西四百都兒格。

一百五十萬一千五百一十萬一千五百一十萬

テ一ヨク人排厭西勢ヲ懲軍勢ヲ下ルカク之ヲ宣シロイ

シアルナウト^人指揮^人ハ海軍と英吉利のアドミラル

シタス拂調子アトモフエ館ハスレニ客舎を以

又、此海軍より一
 艘、前フリガッ
 船、五艘、並、軍
 艦、五艘、前
 又、此海軍より一
 艘、前フリガッ
 船、五艘、並、軍
 艦、五艘、前

十艘帆前
五艘氣運
漕船十艘
帆前

運兵六千艘乃以爲三木筏名曰大軍排頭

多分と申すもいふ事なれど

英吉利の先陣より来る者も幾多ありて大平川を分るも
此處の戦は備へたる人より英吉利の言に勝てりとの
言ひありしに四時の間波は東に其俗の英吉利人より人を
引くも其の攻戦も亦一己の若及し田野を奇襲し其
手は止し其の波谷に於てはひし人より其の境より出
づるも合戦より東西重く共に其の勢に勝てり其の
其時の間も海に船より敵軍を歩使へり其の戦は
か二時より四時迄ものもあり其の戦は
館小のウエーに配下拂朗西の一手は幾千人と其の敵と
其の戦は後より一すも逃避も波拂朗西の敵戦は四時半
迄も東西より人よりセバト波は波拂朗西の英吉利及び拂朗西
の言はれは東西より人の引く重くも負一万余人俘り

同士の多分と申すもいふ事なれど
近頃の多分と申すもいふ事なれど
近頃の多分と申すもいふ事なれど

近頃の多分と申すもいふ事なれど
近頃の多分と申すもいふ事なれど
近頃の多分と申すもいふ事なれど

近頃の多分と申すもいふ事なれど
近頃の多分と申すもいふ事なれど
近頃の多分と申すもいふ事なれど

三軒

光船

海軍

光船のテキサス号は、海軍の艦隊に属する。光船のテキサス号は、海軍の艦隊に属する。

英吉利

記旗

蒸氣船

アリソキ

蒸氣船

アリソキ

蒸氣船

アリソキ

蒸氣船

船師

大砲

バルランコウター

ヒツレン

フーミス

エリコウ

グレス

ホルキユー

ホルソフ

指揮役

スライリグ

エブーウス

ウドオカル

リアーチ

セトルセイフ

フリソキ

病舎養生船

ウエフエツト

カリソキ

蒸氣船

ホルフエツト

リソキ

蒸氣船

リソキ

蒸氣船

リソキ

掛西

蒸氣船

フシガツ

フシガツ

リソレイ

シンデン

ラヤホルセ

ラービ

ラフトラ

スラセン

スバルタ

ヤール

スライキ

ウサシ

十六

十六

十六

十六

十六

十六

十六

十六

十六

十六

十六

十六

十六

十六

十六

ベアウト

チンラ

テイソ

テイソ

テイソ

ヨリ

ユリス

ビュルト

ブリー

アス

イブリ

ホス

エリ

ブリ

イサ

ベアウト

船

船婦

新紅蘭海軍と左の船は有る

ウレダット

フョット

フルフエット

フルフエット

フルフエット

フルフエット

フルフエット

フルフエット

フルフエット

フルフエット

フルフエット

フルフエット

バシムバング

フリレスヘリダリフキテル

ボリアス

ミハヒニヤ

フアンズベイキ

デハローイ

セイルワ

テラコシル

チグモニ

バシグ

アムポニ

リバルア

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

シムパング

バータレグ

バイラーデス

アリニハ

リグ

ユトナ

スームビン

フエシユフイユ

シエリナメ

サテラレグ

オニリユタト

アトミラールヒキ

コレス

ホルモ

蒸氣船

ハクワイヤー

第十一番

フーイカノールホート

蒸氣船

ヨールハコツク

蒸氣船

イケンチダイ

蒸氣船

モルボイセ

蒸氣船

ボウタシ

蒸氣船

フアミダリア

蒸氣船

フィンダ

蒸氣船

ニナ

蒸氣船

ニナ

蒸氣船

ニナ

蒸氣船

ニナ

蒸氣船

ニナ

蒸氣船

ニナ

蒸氣船

ニナ

蒸氣船

ニナ

右通和船差上りぬよ

和蘭甲比丹

オランダ

外月

荒木熊八

西慶太郎

本木昌造

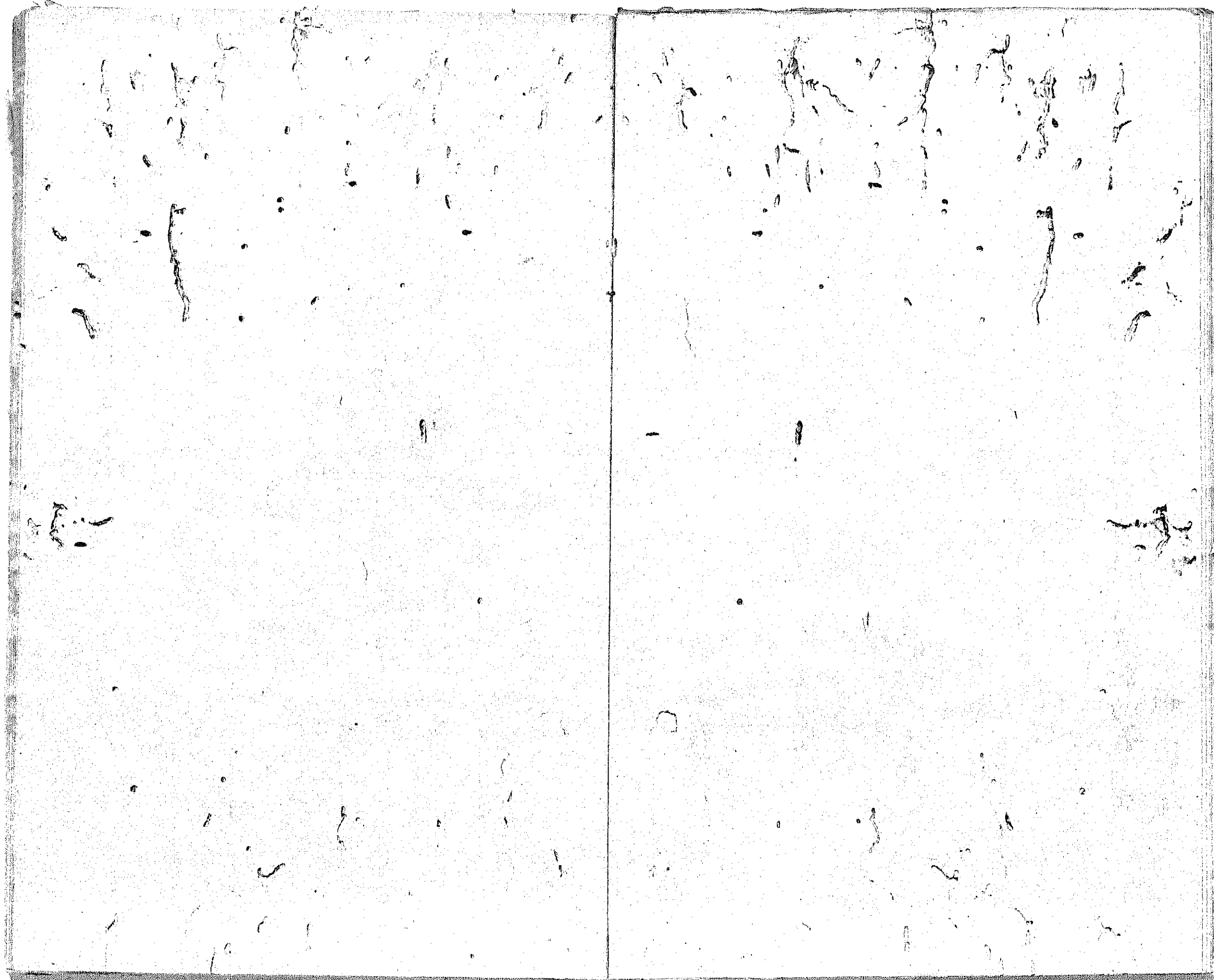
西吉十郎

猪股宗七郎

北村元次郎

安政四年戊午己未新橋寓於駒龍寓所

小林徳藏



1864

九
品
道
士
兼
中
上
候

[illegible]

[illegible]

蘭松入津より満ちたる烟草は、直組にお隔りあつて、
四重に會合し、後入民が右類の役一日、福生は此丹を同
なる直組の秋の伊豆と重なる大保成、三十一とて、若中、丹松

[illegible]

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

一
其の第一は國體の統一に在りては、
外夷との交渉は、
其の第二は、
其の第三は、
其の第四は、
其の第五は、
其の第六は、
其の第七は、
其の第八は、
其の第九は、
其の第十は、

其の第十一は、
其の第十二は、
其の第十三は、
其の第十四は、
其の第十五は、
其の第十六は、
其の第十七は、
其の第十八は、
其の第十九は、
其の第二十は、
其の第二十一は、
其の第二十二は、
其の第二十三は、
其の第二十四は、
其の第二十五は、
其の第二十六は、
其の第二十七は、
其の第二十八は、
其の第二十九は、
其の第三十は、

東軍の勢を以て海軍は出動せずとも及ぶものあり
 賢い道にまゝし明は大陸を奪ひ出賊をかくるべき賢
 い敵の可憐なることを南蘭なるが故に國を奪ひ取ら
 るる外敵活断の由をあたひて治めよと信じて居る者
 慨然とあきらむる事やと云ふは實に戦艦を數大を制し列強
 兵も彼より大なる可い彼軍備の甚るるを日本は驚き
 人々彼種を以て見るを觀戦の如く相絶たず常々秘談
 主其の意を有するを見る地所を死にたゞし其の
 武に際乃たは手は重く也非し入替ふと彼を以て
 公に言彼を以て海軍はとある事やと云ふは實に
 日本は其の如く備へざる利便なるを國の富に
 日本は其の如く備へざる利便なるを國の富に
 日本は其の如く備へざる利便なるを國の富に
 日本は其の如く備へざる利便なるを國の富に

[illegible]

十月

萬壽無疆

江表歸元

7

此の事は、海軍省の調査に依りて、
知れ得たる所なり。其の調査は、
全国東洋の各港に於て、
船舶の出入を調査するに在り。
其の結果、
西津の港に於て、
船舶の出入が最も多し。
其の理由は、
西津の港が、
船舶の出入に最も便利なり。
其の調査は、
船舶の出入の数を調査するに在り。
其の結果、
西津の港に於て、
船舶の出入が最も多し。
其の理由は、
西津の港が、
船舶の出入に最も便利なり。
其の調査は、
船舶の出入の数を調査するに在り。
其の結果、
西津の港に於て、
船舶の出入が最も多し。
其の理由は、
西津の港が、
船舶の出入に最も便利なり。

海軍省の調査に依りて、
知れ得たる所なり。其の調査は、
全国東洋の各港に於て、
船舶の出入を調査するに在り。
其の結果、
西津の港に於て、
船舶の出入が最も多し。
其の理由は、
西津の港が、
船舶の出入に最も便利なり。
其の調査は、
船舶の出入の数を調査するに在り。
其の結果、
西津の港に於て、
船舶の出入が最も多し。
其の理由は、
西津の港が、
船舶の出入に最も便利なり。
其の調査は、
船舶の出入の数を調査するに在り。
其の結果、
西津の港に於て、
船舶の出入が最も多し。
其の理由は、
西津の港が、
船舶の出入に最も便利なり。

[illegible]

却

廣田弘毅

東の事記 卷之四

是と數有難月鎮は更に康を合し世をより海國
備守の如く之を救済し國を安んずるに志あり
海濱に安んずるに志あり之を救済し國を安んずるに志あり
對馬を安んずるに志あり之を救済し國を安んずるに志あり
天竺大佛に津敷徳公丹波公親を以て安んずるに志あり
公諸の事あり之を救済し國を安んずるに志あり
之を安んずるに志あり之を救済し國を安んずるに志あり
津城あり

天保五年二月廿日

群决形

口
春
頭

亦不虛利

江表集

人之保身

四

張

卷之四

卷之五

卷之六

分付中流初浦賀金江岸松花大川西元
爲人出語只今仍舊如昔
右

海にわたるはるか昔に、
一かたは、
坂田三日月の海流のついでに

も、
東洋の海流のついでに

東洋の海流のついでに

夢

夢に、
東洋の海流のついでに

東洋の海流のついでに

東洋の海流のついでに

皇威不遠

廣橋前大石堂

久我大納言建康

[illegible]

中大書局

書卷十二
五件
嘉禾米事
法不違情
塘長種
皇國之政

[illegible]

侯景之亂

今者東夷國來乞博覽易書儒學林大寺於津②
中書以爲稱欲索言十書以助津以一帙重索
神則乞免濟自是四海拜奉之盛一時益慢於世

[illegible]

七

安政二年八月

備中殿侍所

海兵衛一室 海防

長崎奉行
新設奉行

免

前在無事利加官... 海防... 免... 海兵衛一室 海防... 長崎奉行 新設奉行... 免... 海兵衛一室 海防... 長崎奉行 新設奉行...

無事利加官... 免...

安政二年八月... 免...

中事書院買丁月台より書中書面更に懸念のしは等
 知由箱信宜港より西國に清便を留めくする所
 本所より至書院のしは合書事と事と推考する
 有海より至本所よりしは則司事と事と推考する
 同所より至本所よりしは則司事と事と推考する
 中事書院

辛亥巳未月

經田廣中子
 邵邦保子
 牧野備不子
 不世大和子
 月泰紀子

重刊元祐吏部之月大坂同港之月
重刊元祐吏部之月大坂同港之月

李

此方は、主として、
一、整頓
二、整備
三、整理
四、整頓
五、整備
六、整理
七、整頓
八、整備
九、整理
十、整頓
十一、整備
十二、整理
十三、整頓
十四、整備
十五、整理
十六、整頓
十七、整備
十八、整理
十九、整頓
二十、整備

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, located in the upper right corner of the page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a date or a short phrase, located below the first signature.

Handwritten text in a cursive script, possibly a date or a short phrase, located in the lower right corner of the page.

